

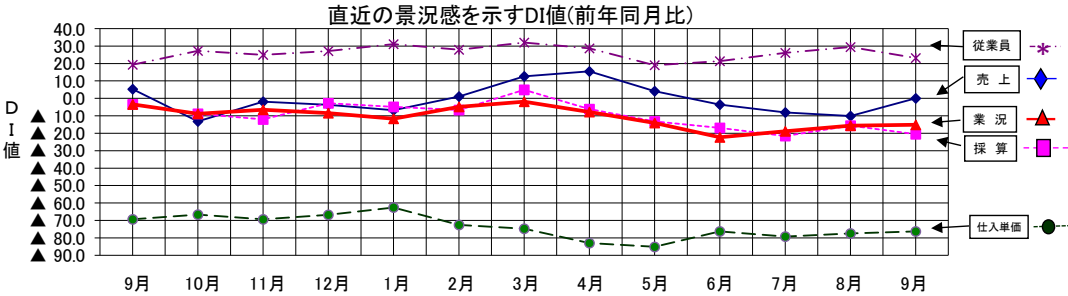
【9月の概要】

売上DIはマイナスを解消し先行きもプラス圏へ
採算の悪化は続く

直近の景況感を示すDI値では、「売上DI」が前月の▲10.1から0.0へ10.1ポイント上昇し、6月から3か月続いたマイナスを解消した。「業況DI」は▲15.6から▲15.2へ0.4ポイント、「仕入単価DI」は▲77.5から▲76.3へ1.2ポイント、それぞれマイナス幅がわずかに縮小した。一方、「採算DI」は▲15.6から▲20.5へ4.9ポイントマイナス幅が拡大した。「従業員DI」は29.4から23.2へ低下し、人手不足感が弱まった。

向こう3か月間の先行き見通しでは、「売上DI」が前月の▲4.6から9.8へ14.4ポイントの大幅な上昇となり、プラス圏に転じた。「採算DI」は▲14.7から▲9.8へ4.9ポイント、「仕入単価DI」は▲56.9から▲53.6へ3.3ポイント、「業況DI」は▲13.8から▲13.4へ0.4ポイント、それぞれマイナス幅が縮小した。「従業員DI」は24.8から20.5へ低下し、人手不足感が弱まる見通しにある。

コメントでは、原材料や仕入価格の上昇に対し、競合との関係や消費行動の抑制から価格転嫁が進みにくいとする声が多くみられた。価格改定によって売上は維持されているものの、利益の確保には限界があるとの指摘も寄せられている。また、金利の上昇が需要や採算、資金繰りに与える影響を懸念する声のほか、一部の業種では人材の需給が緩みつつあるとの見方や、防災関連の需要を見込む声もみられた。



【直近の景況感を示すDI】 ※DI(景況判断指数:Diffusion Index の略)=(良い割合)-(悪い割合)
※従業員=(不足)-(過剰)

	2025年	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	2026年	9月
売上	▲	5.3	▲13.2	▲1.9	▲3.7	▲6.8	1.0	12.6	15.5	4.1	3.6	▲8.1	▲10.1	0.0	▲
採算	▲	3.5	▲8.8	▲12.0	▲2.8	▲4.9	▲6.7	4.9	▲6.2	▲13.2	▲17.0	▲21.6	▲15.6	▲20.5	▲
業況	▲	3.5	▲8.8	▲6.5	▲8.4	▲11.7	▲4.8	▲1.9	▲7.8	▲14.1	▲22.3	▲18.9	▲15.6	▲15.2	▲
仕入単価	▲	69.3	▲66.7	▲69.4	▲66.8	▲62.6	▲72.6	▲74.8	▲83.0	▲85.1	▲76.3	▲79.3	▲77.5	▲76.3	▲
従業員	▲	19.3	27.2	25.0	27.1	31.1	27.9	32.0	28.7	19.0	21.4	26.1	29.4	23.2	▲

- ・前月比でマイナス幅が減少(改善)したDI値: 売上+10.1ポイント、業況+0.4ポイント、仕入単価+1.2ポイント
- ・前月比でプラス幅が減少(改善)したDI値: 従業員▲6.2ポイント(人手不足感が弱まった)
- ・前月比でマイナス幅が増加(悪化)したDI値: 採算▲4.9ポイント

【向こう3か月間の先行き見通しを示すDI】

	売上(受注・出荷)	採算	業況	仕入単価	従業員
7月回答	6.3	▲10.8	▲12.6	▲64.9	27.9
8月回答	▲4.6	▲14.7	▲13.8	▲56.9	24.8
9月回答	9.8	▲9.8	▲13.4	▲53.6	20.5

- ・前月比で見通しが改善したDI値: 売上+14.4ポイント、採算+4.9ポイント、業況+0.4ポイント、仕入単価+3.3ポイント
- 従業員▲4.3ポイント(人手不足感が弱まった)

【業界から寄せられた主なコメント】

建設業	土木・建築	建設資材や労務のインフレに伴い、業界あげての価格転嫁への交渉努力が続いているが、金利の上昇傾向により、需要や採算性、キャッシュフローへの一層の意識と配慮が必要となっている。
製造業	溶接・加工	周辺の製造業では仕事が忙しくなっているようだ。ただ一斉に受注してもこなせないため、自社のキャパシティに余裕を持たせたい。求人は出しているが、経験者の確保が難しい。
小売業	コーヒー	度重なる食料品の値上げにより、消費行動が抑制されていると思われる。価格改定によって売上は維持されているものの、限界が来ている。1品当たりの利益金額は減少しており、製造コストのすべてを価格に反映できていない。
	ガス	定価や仕入価格が上昇しても、競合他社との関係でなかなか販売価格に上乗せできない。
	ホームセンター	地震や水害が全国で相次いでおり、昨年は大きな災害がなかった反動もあって、今後は防災需要の高まりが想定される。
サービス業	ソフトウェア	ソフトウェア業界において、人材が余り始めているとの声が聞かれる。生成AIの活用による影響も考えられ、今後の動向を注視していく。
	タクシー	中東情勢が業績に大きく影響しているうえ、成長投資により予算規模が拡大している。金利の上昇による企業や一般社会への影響が懸念される。
	貨物輸送	石油関連製品の供給不安による特需が一服したことに加え、商品の値上げや情勢不安からの買い控えにより、今後は物量の鈍化が想定される。

※本コメントは、調査結果の一部を編集・要約したものです。内容の趣旨を損なわない範囲で表現の調整を行っています。

早期景気観測調査 新潟商工会議所管内 9月分 各業界からのコメント

建設業
なかなか人材が確保できず、採用のための費用が負担となっている。
物流の効率化に関する法の改正により、対象が、従来の運送業者に加え、入出の荷主である建設業にも努力義務が求められることとなった。責任者を立て、今後の計画を策定中である。
ここ数年は建設資材・労務に関するインフレに伴い、業界あげての価格転嫁への創意工夫・交渉努力が続いているが、更に金利の上昇傾向により、需要、採算性、キャッシュフローへの更なる意識・配慮が必要となっている。
製造業
業況的には、まわりの製造業（狭い範囲ですが）は忙しくなってきたようです。ただ一斉に仕事が来てもこなせないので自分たちのキャパ+αを持てる余裕を作りたい。求人は募集していますが、経験者が欲しいです。
卸売業
公共資材卸商いですが、引合いに勢いを感じない。
度重なる、食料品の値上げで、消費行動が抑制されていると思われる。価格改定のおかげで、売り上げが維持されているように思われるが、限界が来ているように思う。 当然ながら1品当たりの利益金額は減少している。すなわち、製造コストのすべてが価格には反映できていない。
小売業
8月終わりのころ、新潟日報に26年上期4～6月期大幅悪化という記事が出ていました。当店も4月までは、順調に売上が推移していましたが、5月はゴールデンウィークで日数が少ないため毎年売上は低調ですが、6月もかなりの落ち込みで7月・8月で挽回ができと思っていたのですが、昨年より売り上げが落ちていました。そこにこの記事が出て、この先の展望が分からなくなりましたので、業況を悪化としました。銀行から、新潟市の7月発行の新潟市制度融資のご案内が届き、この先の業況が悪くなるのではないかと危惧しております。また、商品の値上げのニュースを見ても、良くならないのではないかと思います融資を考えている次第です。小売業には、大打撃の年にならないことを願っています。
富裕層における高額品の動きが引き続き良い
定価や仕入れ価格が上昇しても競合他社との関係で、なかなか販売価格に上乗せできない
震災や水害が全国で相次いでいます。昨年は大きな災害がなかった反動もあり、今後防災需要の高まりが想定されます。引き続き、お客様のニーズに沿った商品提供を行ってまいります。
サービス業
アトリエレッスンの個別レッスンが減少し、イベント、講習会が増えているので、季節商品をメインに今後活動する。
ソフトウェア業界に於いて、人材が余り始めているとの声が聞こえる。生成AIの活用による影響も考えられるため、今後の動向に注意して行く。
石油関連製品の供給不安による特需が一服したのに加え、様々な商品の値上げや情勢不安からの買い控えにより、今後物量の鈍化が想定される。
中東騒ぎが業績に大きく影響を齎している上に、成長投資により予算規模が青天井気味となっている。 金利の上昇は、企業及び一般社会に及ぶことが心配される。